

楽しく書道に取り組む

当別町立当別小学校



◆書道の取り組みが

盛んなのですね

日本書道連盟が主催する第36回全道書道コンクールに出品し、団体の部で5年連続の優勝を飾ることができました。当別小学校では、昭和57年にこのコンクールで初優勝してから16回の優勝を数えます。このコンクールには毎年、自主的に、約120人が参加し、170点前後の作品を応募しています。児童が入れ替わっても上級生から下級生へ書道のおもしろさが受け継がれ、良い作品、良い結果につながっています。

◆児童たちの取り組みの様子は

練習は、授業中のほかに放課後、5人くらいの先生が指導しています。個人のレベルはそれぞれですが、児童たちは「今日は良いのができたね」などと声を掛け合い笑顔で楽しみながら筆を持っています。優勝した喜びからまた来年も頑張ろうという意識が芽生え、書かないといけないという使命感ではなく、自分たちが好きだから書いているという雰囲気生まれ、最近、放課後に残って練習する子供も増えており、書道に対する意識がどんどん高まっています。

この自主性が学校生活や学習への取り組みにつながるのだと思います。

◆これからも続けて
行きたいですね

ここまで書道の取り組みが続いているのは、家庭、学校、地域でうまく連携が取れているからだと思います。

当小に今年発足した「オヤジの会」が掲示板の作成を計画中で、ここに児童の作品を掲示して多くの方に見ていただければ、更に子供たちの励みになると思います。

これからも、家庭や地域からの応援を受け、助け合い、励まし合いながら「書道」の伝統を守り続けたいです。

今回は、書道を指導している藤井康博先生にお話を聞きました。

当別の風景

「晴天にそびえる」

川下右岸にて撮影

写真提供 笠井 嗣夫さん(札幌市)

